

公益社団法人ガールスカウト日本連盟

2020 年度

事業報告書



わたしが変わる。
未来が変わる。

2020 年度 事業報告書

目次

● 2020 年度総括および戦略計画 2018-2020 総括	1
2020 年度をふりかえって	1
戦略計画 2018-2020 総括	2
● 事業実施報告	6
日本のガールスカウト運動 100 周年事業関連	6
教育プログラム	8
成人のトレーニング	12
組織と運営	15
会員	18
社会との関係	20
財政	23
● 政府委託事業・共催事業	25
● 2020 年度民間助成金	25
● 2020 年度世界連盟への寄付（2021 年 3 月末時点）	25
● 2020 年度他団体役員等就任状況	26

2020 年度総括および戦略計画 2018-2020 総括

2020 年度をふりかえって

2020 年度は、2020 年ビジョン「すべての少女と若い女性が声をあげ、よりよい社会にするために行動を起こす」の達成の年であり、戦略計画 2018-2020 の最終年であり、そして、日本のガールスカウト運動 100 年の年でありました。2018 年からの 3 年間で以下の 2 つのゴールに到達できるよう、団、都道府県連盟（以下県連盟）、日本連盟が一丸となり 4 つの戦略テーマに取り組んでまいりました。しかし、最終年となるこの 2020 年は、世界中で新型コロナウイルス感染症との闘いの年となり、これまでとは異なる取り組みを余儀なくされることとなりました。

戦略計画のゴール：

- [ゴール 1] 少女と若い女性が能力を伸ばし、リーダーシップを発揮する機会をより多く提供する
- [ゴール 2] 少女と若い女性が社会を変える力をつける

コロナ禍は、私たちの日常生活を奪い、さまざまな制限をもたらしました。その中でも、ガールスカウトの「そなえよつねに」の精神のもと、創意工夫を凝らし、少女の成長を支えるための活動を止めることなく、全国各地で活動が繰り広げられました。特に、少女会員は STAY HOME バッジを通し「ありがとうの輪」を広げたり、健康に、安心して Stay Home する方法などを積極的に考え実践したりと、社会への責任を果たしました。成人会員は、これまでの活動方法にとらわれず、ICT 活用を促進し、団・県連盟・日本連盟での諸会議、指導者研修、リーダー養成講習をはじめ、少女会員のためのオンライン集会の工夫など新しいことに挑戦し続けました。ICT 活用による情報共有や交流は、国内にとどまらず、幅広い年代で世界中のガールスカウトとつながる活動を実現させました。このような困難な状況であるにもかかわらず、230 カ団が前年度の会員数を増加させました。これは、全会員の努力のたまものであるといえます。

政府の要請を受け、ガールスカウトの会員だけでなく、会員外の子どもたちに対しても、コロナ禍で制限された野外での体験活動の場を提供することに全国 33 都道府県連盟で取り組み、4,000 人を超える人たちに活動の場を提供し、社会に貢献することができました。

新型コロナウイルスは世界で猛威を振るい、世界連盟および世界中の加盟連盟が経済的な影響を受けました。日本連盟も例外ではありませんでしたが、かねてから日本の会員の皆さまからお預かりしていた、相互援助計画（世界連盟の加盟連盟間で助け合うプロジェクト）のための資金を、分担金の支払いが困難である国連盟への支援に充てることを理事会で決定し、スリランカ連盟、バングラデシュ連盟、モンゴル連盟を支援することができました。

2020 年は、新しいビジョンおよび戦略計画 2021-2023 を策定しました。コロナ禍により急進展したオンライン活用は、ビジョン・戦略計画策定にあたり、会員に対し

より広く情報を伝え、理事会はさまざまな提案を受けることができました。中でも、7月に開催した「Voices to GSJ～一緒にガールスカウトの未来をつくろう」の情報会は、全国の会員に日本連盟の情報を伝えることができました。そして、少女会員から成人会員まで幅広く提案があったことは、戦略計画 2021-2023 及び 2021 年度の事業計画に、会員の意見を取り入れ、次の100年に向けて、持続可能な組織となる礎となる活動であったといえます。

さまざまな困難に直面した 2020 年度でありましたが、一方で新たな取り組みが発展した年でもありました。

日本連盟事業も、ほぼすべてをオンラインで実施し、成人会員を対象とした事業だけでなく、少女会員を対象とした事業まで、新しい形で事業を展開することができました。中でも、100 周年記念事業の一つ、国際ガールズメッセでは、プレイベントとしてオンラインで実施し、佳子内親王殿下のメッセージをはじめとし、「ジェンダー平等を実現しよう」とする日本連盟の意思を、内外に示すきっかけとなりました。シニア部門を対象としたオンラインでのガールスカウトカフェでは、大学生などの身近な先輩の話や、海外のガールスカウトからの話を聞く機会となりました。このような取り組みは、日本連盟主催にとどまらず、日本全国の会員が主催し開催されています。

成人が直接日本連盟へ登録できる特別個人会員制度は、2020 年 12 月の臨時総会の承認を得て新年度からスタートします。4 月開園の「西原ほほえみ保育園」への賃貸事業も順調に進んでいます。2014 年から Free Being Me をともに取り組んでいるユニリーバ・ジャパン・カスタマーマーケティング株式会社が、文部科学省「青少年の体験活動推進企業表彰」で審査委員会優秀賞を受賞されるといううれしいニュースもありました。

ようやく日本社会でも認識され始めた「ジェンダー」に関する啓発のためのオンライン教材を、内閣府と協働で製作するなど、これまで蓄積した力を発揮できた1年でもありました。

戦略計画 2018-2020 総括

① 運動にかかわる仲間の拡大

一人でも多くの少女と女性に力をつける機会を提供するために、運動に関わる仲間の拡大を目指します

多くの少女と女性の関わりを深めるために、ガールスカウトの日・おやこでチャレンジ・春の体験集会などの全国一斉活動が県連盟および団で積極的に取り組まれるようになりました。3 年目となる 2020 年は、全国的に Stay Home の状況となり、急遽オンラインでの発信活動となりましたが、インターネットで「ありがたいの輪を広げる」活動を全国各地から発信をすることができ、ガールスカウトへの理解・共感の拡大につながる活動ができるまでになりました。この3年間で、広報の拡充および、SNS やウェブ上での可視化が進んだ結果であるといえます。

また、他団体・企業とのパートナーシップも徐々に拡大し、他団体のウェブサイトにも活動が紹介されるなど、さまざまな人々へのかかわりを広げる活動も徐々に

広がってきました。

一方で、団での基本的な教育活動の拡充を目指し、日本連盟公式ホームページを活用し、年少部門の集会例共有などの充実をはかりました。2020年4月、コロナ禍における初期の活動支援のための STAY HOME バッジの提案を皮切りに、他団体のオンラインプログラムの紹介などをおこなっています。今後は団での集会が充実するよう、より一層活用の促進を進めます。年長部門およびユース年代では、ガールスカウト活動を通じて培った力をさらに発展させられるよう、少女や若い女性が直面する課題への取り組みを日本連盟事業で進めるとともに、県連盟でのプログラム実施に向けて情報提供を進めています。同時に、少女や若い女性が広い視野を持てるような取り組みとして、国内での国際的なリーダーシップトレーニングの実施に加え、オンラインで実施されるようになった世界連盟等が開催する国際的なフォーラムなどの情報を提供し、指導者の学びの機会拡大がはかれるようになりました。

県連盟・団組織運営の支援では、新任連盟長への研修や連盟長会議を通し、連盟内のコミュニケーションの活性化と、団・県連盟に関わるすべての人が「じぶんごと」として活動・運営に関わることを促進しました。特に、2020年度にオンラインで開催した連盟長会議へは、県連盟の全理事を参加対象とするなど、オンライン化は、ガールスカウト会員同士のコミュニケーションの可能性を飛躍的に発展させました。

継続率の拡大のために、各県連盟の会員動向に関する諸データを共有し、各県連盟がデータを活用した会員増施策の検討の一助としました。さらに、データを活用した施策検討を充実させるために、横浜市立大学との協働プロジェクトを実施する予定でしたが、2020年度はコロナ禍により中止となりました。このプロジェクトは2021年度に実施され、一層データに基づいた会員増のための取り組みを進める一助とします。

以上により、2018年度、2019年度は300カ団を、2020年度は200カ団を越す団が前年度と比較し会員数を増加させました。各団の取り組みが反映される形で、都道府県連盟全体としても、会員数の維持・増加を実現した連盟も現れ、当初の目標であった会員数40,000人は届きませんでした。着実に「運動にかかわる仲間の拡大」に向けての歩みは進めることができました。

コロナ禍により、従来の方での活動が難しくなりましたが、これまでの活動方法を新しい日常に合わせる部分、より強化する部分を取捨選択しながら、引き続き運動にかかわる仲間の拡大に取り組む必要があります。

② 社会に対するガールスカウトの「はたらきかけ」を拡大

少女と女性にとってよりよい社会の実現を目指します

社会に対するガールスカウトの「はたらきかけ」を拡大するために、2016年度より「コミュニティアクションチャレンジ100(CAC100)」に取り組み始めました。これにより、年々コミュニティアクション(コミュニティをよりよくするための活動)のプロジェクトが顕在化し、2020年には、グランプリ受賞チームが誕生しました。

CAC100への取り組みを促進するために、社会課題をテーマに、シニア、レンジャー部門を対象とした事業に力を入れました。シニア部門を対象とした事業は、全国7地区での事業として、レンジャー部門を対象とした事業は全国規模での活動として取り組みました。2020年度はコロナ禍の影響により全国規模で集まることは不可能となりましたが、急遽オンラインでの実施に切り替え、少女と女性にとってよりよい社会の実現の障壁となっていることをテーマとし、それらの事業の参加者が変化のための行動を起こしています。この活動をさらに支援するために、指導者の育成のための取り組みも並行して実施しています。

さらに、ガールスカウトが取り組むべき社会課題を明確にするために、高校生年代および大学生年代それぞれに対しジェンダーに対する意識調査等をおこない報告書を作成し、内外に対して、ガールスカウトが「少女や女性が直面している課題」に取り組んでいるという姿勢を示しました。このほか、環境への取り組み、防災に関する取り組み、社会に対して「ありがとう」を伝える取り組みなど、会員による社会に対する「はたらきかけ」は、着実に拡大し、目に見える形になってきました。

4つ目に掲げていた「新教育プログラムの策定と実施」に関しては、具体的取り組みとして結果を出すことはできませんでしたが、次の3年への取り組みとして「教育プログラム・指導者養成制度総合見直しプロジェクト」の実施を決めました。

③ 活動を持続するための財政基盤の強化

活動の質と健全な財政を維持することを目指します

このテーマの目標であった「2020年までに収支差額0円を実現する」は、2019年度にガールスカウト会館に関する検討を始める決断をし（第91回定時総会）、会館の1階部分を保育事業者への賃貸を開始することができ、収支差0円を実現することができました。

会員内外への資金調達手段拡充については、100周年に向けたみらい募金の働きかけ、ファンドレイジングチームの活動による積極的な働きかけにより、寄付額を増やすことができました。インターネットを活用した寄付、毎月一定額の寄付をお願いするマンスリー募金など多様な方法の活用を進めています。また、ガールスカウトの「少女」に対する取り組みに賛同した企業からの助成金も得られるようになりました。とりわけ、2020年度に文部科学省委託事業を全国の都道府県連盟と実施できたことは、ガールスカウトへの信頼に基づく依頼であり、その期待を十分に果たせたと考えています。

グッズ事業の収益性拡大のために、販売方法・在庫管理の一元化を図り管理費の削減を図ると同時に、新商品の投入など、収益性を拡大する努力を進めています。一方で、コロナ禍により活動が停滞し、ユニフォームの販売数減などは、大きなインパクトとなりました。

管理費支出の効率性の追求については、2020年のコロナ禍の影響で、図らずもオンラインでの会議や事業実施を余儀なくされ、そのことにより活動の方法を見直す

機会となりました。オンラインでの会議は、直接集まることによって得られていた時間的・空間的余裕を失うことになりましたが、一方で会議趣旨の整理、移動にかかる時間や費用の削減など良い点もありました。とりわけ、全国的に情報を行き届かせ、全国の会員から意見を聞くことが重要であるガールスカウト日本連盟にとっては、費用の抑制以上に得るものがありました。事務局での業務効率化については、持続可能性をキーワードに、その方法の改善に取り組んでいます。

適正な会計処理の継続については、日本連盟としての会計処理は、適宜公益認定等委員会および会計顧問等と相談し、公益法人会計基準に則り処理を進めています。2019年9月に実施された、公益法人への内閣府立ち入り調査においても特段の指摘はありませんでした。また、正会員である県連盟についても、適正な会計処理を支援するために、決算報告書を通しての確認などを実施しています。引き続き、適正な会計処理を継続するための取り組みを進めます。

全体財政計画の見直し再構築については、新しい戦略計画と期間を合わせるため、2020年度に取り組む予定でしたが、コロナ禍の現状を鑑み、次年度以降の策定としました。次年度からは、「組織・財政長期戦略検討プロジェクト」を立ち上げ、検討を始めます。

④ 100周年事業を契機としたガールスカウト運動の強化

少女と女性にエンパワメントの機会を提供する団体であり続けることを目指します

2016年度から取り組みをはじめた100周年事業の集大成の年となるはずでしたが、コロナ禍により、記念事業を延期することとなりました。コロナ禍の影響にもかかわらず、都道府県連盟で、そして全会員が100周年に心を寄せ、オンラインなどを活用した取り組みを進めることができました。100周年記念事業である「国際ガールズメッセ」は2021年度に、「インターナショナルキャンプ」は2022年度に実施予定とし、着実に準備が進められていることは、会員の力が結集していることの表れといえます。引き続き、100周年記念バッジをはじめ、オンラインの活用を促進するなど、100周年事業を契機としたガールスカウト運動の強化を推進してまいります。

以上、戦略計画2018-2020に基づく3年間の実践の上に次の3年間の取り組みを進めます。

ビジョン2032「ガールスカウトは、『すべての少女と女性が自分らしく生きられる社会』を目指して行動する女性を育てる。」の達成に向けて、「ねばならない」意識からの脱却を大命題とし、全ての会員の力を結集できる運動体となることを目指します。

以上

事業名	ガールスカウト 100 年誌
実績	2021 年 3 月 31 日発行 A4 判 フルカラー 6,000 部 (別冊付)

事業名	国際ガールズメッセ
実績	<p>プレイベントを 2 回開催 (オンライン) <プレイベント></p> <p>10 月 10 日 (土) オンラインセレモニー 395 デバイス (およそ 1300 人) 100 年の活動をふりかえり未来へつなげよう 37 人 ガールスカウトカフェ 28 人</p> <p>10 月 11 日 (日) #じぶん部女子高校生調査 2020 121 人 性教育 YouTuber シオリーヌの「発信を続ける力」 83 人 ゲストスピーカー：シオリーヌ氏 #KuToo に見るジェンダーバイアス「私が声をあげるなら」 92 人 ゲストスピーカー：石川優実氏 (KuToo)</p> <p>プレイベント動画視聴数 47 都道府県連盟の活動紹介 765 回 動画「今伝えたいユースの声」 611 回 #KuToo に見るジェンダーバイアス「私が声をあげるなら」 535 回 CAC100 アワード受賞者報告動画 1,093 回 B-P アワード受賞者報告動画 280 回</p> <p><プレイベント 2> 2021 年 3 月 7 日 (日) 声をあげるってどんなこと? 22 人 ゲストスピーカー： 大澤祥子氏 (ちゃぶ台返し女子アクション)、 小野万優子氏・伴ちひろ氏 (卒アル上書きプロジェクト) 私たちと今をつなぐ大人の学び～性教育編～ 79 人 ゲストスピーカー： 性教育 YouTuber シオリーヌ氏 (助産師)</p> <p>実行委員会 11 回 (プレイベントの企画・実施、メッセの企画等) ユースメッセンジャー決起集会：2021 年 3 月 6 日 (土)</p>

事業名	インターナショナルキャンプ “Discover WOW”
実績	実行委員会 12 回 延期を決定 国際キャンプに向けて、参加者のモチベーションを高めるために、ガールスカウトカフェ インターナショナル編を実施 引き続き、高いモチベーションを維持しつつ、2022 年夏実施に向けて準備を続ける

事業名	100 周年バッジ
実績	3,110 枚（累計 6,498 枚）

事業名	100 周年に向けた資金調達活動（ファンドレイジング）
実績	100 周年事業への寄付 1,276,313 円（目標額 1,550,000 円）

事業名	100 周年特設ホームページ（100 周年周知拡大）
実績	新規情報を随時更新 Instagram でキャンプ 100 のコト、ジェンダー平等実現 100 のコトを掲載 サイトビュー数：40,196PV

教育プログラム

事業名	年少部門の教材開発
実績	STAY HOME バッジの発表および取り組み事例の紹介

事業名	STAY HOME バッジへの取り組み促進
実績	コロナ禍での活動を促進する取り組みとして STAY HOME バッジを制定 2021 年 3 月末までの取り組みとした 期間：2020 年 4 月～2021 年 3 月 31 日 バッジ取得数 9,717 枚

事業名	レンジャー年代：全国キャンプ（野営）
実績	中止

事業名	レンジャー年代 全国事業
実績	<p>テーマ：レンジャーonline ミーティング our voices will change the world</p> <p>期日：事前学習：9月16日（水）～11月20日（金）（オンライン）</p> <p>事業当日：11月21日（土）・22日（日）（オンライン）</p> <p>事後活動：11月23日（月・祝）～3月31日（水）</p> <p>参加人数：レンジャー22人（14県連盟）、実行委員6人、理事2人</p>

事業名	地区シニア部門事業			
テーマ	わたしの声とみんなの声プログラム（プログラム）			
参加者総数 283人（シニア183人、レンジャー32人、指導者68人）				
	地区（担当連盟）	期日	会場	参加人数
	北海道・東北地区	中止	-	-
	北関東地区	中止	-	-
	南関東地区 （神奈川県連盟）	11月29日（日）	課題取り組み オンライン	シニア 55人 指導者 26人 合計 81人
	北陸・東海地区 （岐阜県連盟）	10月～11月	プログラムを地 区内の各連盟で 実施し冊子にま とめる	シニア 128人 レンジャー 32人 指導者 42人 合計 202人
	近畿地区	中止	-	-
	中国・四国地区	中止	-	-
	九州・沖縄地区	中止	-	-

事業名	国際理解支援事業
実績	<p><海外研修渡航費補助></p> <p>派遣先での事業中止、渡航制限により、すべて申請取り下げ</p>
	<p><国際紹介状の発行></p> <p>2件（個人の勤務、家族の勤務による渡航）</p>
	<p><国際交流申請></p> <p>1件（ガールスカウトアメリカ連盟ウェストパシフィックとの交流）</p>
	<p><招へい申請> 0件</p>

事業名	Greener × Greener II
実績	<ul style="list-style-type: none"> 平和のための寄付金 11,000 円 Greener×GreenerIIバッジ取得数 245 枚

事業名	Stop the Violence キャンペーン
VAV プログラムの普及	<ul style="list-style-type: none"> STV バッジオンラインプログラム及び VAV バッジプログラムの促進 バッジ取得数：STV バッジ 256 枚（2021 年 3 月終了） VAV バッジ 193 枚 STV バッジオンラインプログラムの改定 中学生や高校生年代のためのオンラインプログラム「me and them」制作（内閣府共催事業）2021 年 3 月 24 日（水）公開開始 VAV プログラムの実施促進 地区シニア部門事業での実施 2 地区 レンジャーonline イベントで実施 意識調査 ジェンダーに関する女子高校生調査 6 月 12 日（金）～7 月 14 日（火） 回答数 700 人 報告会 10 月 11 日（日）国際ガールズメッセプレイイベント 成人会員・保護者対象アンケート（ジェンダー意識・活動について） 6 月 2 日（火）～6 月 30 日（火） 回答数 成人会員 818 人、保護者 533 人 女性の健康と性に関するアンケート 2021 年 2 月 11 日（木・祝）～3 月 25 日（木） 回答数 女子高校生 304 人 大学生調査報告会 6 月 27 日（土）（オンライン） STV キャンペーン パブリックコメント 「第 5 次男女共同参画基本計画策定に当たっての基本的な考え方について」に関するパブリックコメントを団体として提出 高校生調査を分析したレンジャー9 人も提出 SNS 展開 ジェンダー平等 100 のコト 9 月～12 月 Stop the Violence キャンペーン ページでの発信 フォロワー数 1,335 人

事業名	Free Being Me (FBM) 第 2 弾
実績	<ul style="list-style-type: none"> プログラム実施促進 バッジ取得数：大好きなわたしバッジ 302 枚、FBM 行動編バッジ 160 枚 指導者養成数：大好きなわたし 38 人、行動編 30 人

	・ダヴとの協働イベントの実施（22頁 他団体との連携参照）
--	-------------------------------

事業名	オリンピックバッジ 2020 への取り組み
実績	・バッジ取得数 2,384 枚（累計 5,595 枚） 取り組み期限：2022 年 3 月末に延長

事業名	防災・減災教育
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・防災・減災教育の促進 防災マイスターバッジ 723 個 ・KIZUNA Day 取り組み促進 全国各地で実施 特別イベント 防災科学技術研究所との協働企画 「KIZUNA Day 特別イベント『親子防災科学教室』」の実施 期日：2021 年 3 月 14 日（日）（オンライン） 参加者数：約 600 人 ・Facebook での発信 KIZUNA Line フォロワー数 1,436 人 ・災害等支援金からの会費助成 18 人

事業名	SDGs への取り組み
実績	SDGs バッジ取得数 4,193 個

事業名	ミャンマー連盟との協働事業：Reach Out プロジェクト
実績	コロナ禍により、ミャンマー連盟招へいが不可能となった 2019 年度に同事業に参加した日本人参加者がジェンダー平等に向けてのワークショップの実施などの取り組みをおこなった

事業名	ワールドシンキングデイ
実績	<p>テーマ：ピースビルディング（平和構築） 期日：2021 年 2 月 22 日（月）周辺で実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・WAGGGS 発行活動パックの翻訳版の発行 ・オンライン指導者研修の実施（14 頁 リーダーへの支援参照） ・特設ウェブサイトの開設 Facebook と Twitter へのハッシュタグ投稿から、世界中のつながりを感じられる活動を集め、発信した

事業名	戸隠ガールスカウトセンターを活用した教育の実践
実績	期日：4月25日（土）～11月9日（月） （24頁 戸隠ガールスカウトセンターの管理運営参照）

事業名	教材等の出版・販売
実績	新規発行物 ・アドボカシー活動を始めるためのガイドブック ・2021 ワールドシンキングデイ活動パック「平和のために」 ・女子大学生×ジェンダー調査報告書 2020 ・「ジェンダー」に関する女子高校生調報告書 2020

委員会名	教育・指導者委員会
実績	2回開催

成人のトレーニング

事業名	トレーナー対象トレーニング
実績	<p>トレーナーセミナー（オンライン）</p> <p>【セッションA】オンラインホストにチャレンジ～はじめの一步～</p> <p>①2020年11月1日（日）9:30～11:30 ②2020年11月1日（日）13:00～15:00 ③2020年11月23日（月・祝）9:30～11:30 ④2020年11月23日（月・祝）13:00～15:00</p> <p>【セッションB】現代社会におけるジェンダー平等についての理解</p> <p>①2020年12月5日（土）9:30～11:30 ②2020年12月5日（土）19:00～21:00 ③2021年2月6日（土）16:00～18:00 ④2021年2月7日（日）13:00～15:00</p> <p>【セッションC】多様性・包摂性・公正</p> <p>①2020年12月5日（土）13:00～15:00 ②2020年12月6日（日）9:30～11:30 ③2021年2月6日（土）9:30～11:30 ④2021年2月6日（土）19:00～21:00</p> <p>【セッションD】学校教育とガールスカウト教育</p> <p>①2020年12月5日（土）16:00～18:00 ②2020年12月6日（日）13:00～15:00 ③2021年2月6日（土）13:00～15:00 ④2021年2月7日（日）9:30～11:30</p>

<p>参加者数：【セッションA】41 都道府県連盟 147 人 【セッションB】38 都道府県連盟 149 人 【セッションC】39 都道府県連盟 154 人 【セッションD】39 都道府県連盟 155 人 運営者数：成人トレーニング委員会 8 人、理事 1 人</p>
<p>トレーナーの単元I（オンライン） 期日：2021 年 1 月 27 日（水）～3 月 31 日（水） 取得者数：133 人</p>
<p>VAV アンバサダー対象相互研修（オンライン）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインミーティング 期日：8 月 30 日（日） 参加者数：58 人 ・「子どものための人権教育リーダー養成研修」説明会① 期日：11 月 28 日（土） 参加者数：52 人 ・「子どものための人権教育リーダー養成研修」説明会② 期日：12 月 19 日（土） 参加者数：38 人

事業名	Stop the Violence キャンペーン VAV 指導者研修会		
<p>申込者総数 120 人（ステップ1・3・6は各自で課題取り組み） 資格取得者数 111 人（会員外 8 人含む）</p>			
実績	期 日	会場	参加人数
	2021 年 1 月 10 日（日）	ステップ 2 オンライン	10 人
	2021 年 1 月 17 日（日）	ステップ 2 オンライン	12 人
	2021 年 1 月 24 日（日）	ステップ 2 オンライン	28 人
	2021 年 1 月 31 日（日）	ステップ 2 オンライン	13 人
	2021 年 2 月 13 日（土）	ステップ 4 オンライン	38 人
	2021 年 2 月 14 日（日）	ステップ 5 オンライン	31 人
	2021 年 2 月 28 日（日）	ステップ 2 オンライン	30 人
	2021 年 3 月 7 日（日）	ステップ 2 オンライン	24 人
	2021 年 3 月 13 日（土）	ステップ 4 オンライン	55 人
	2021 年 3 月 14 日（日）	ステップ 5 オンライン	57 人

事業名	ガールスカウト 트레이ナー認定講習会・審査会
実績	期日：2021年1月10日（日）・11日（月・祝）（オンライン） 参加者：プログラムトレーナー6人

事業名	プログラムトレーナー認定審査会
実績	期日：2021年1月9日（土）（オンライン） 参加者：トレーナー候補者12人

事業名	トレーナー養成・育成勉強会
実績	中止

事業名	海外研修本部派遣（成人）
実績	第37回世界会議 2021年に延期
	アメリカ連盟グローバルラウンドテーブル2020 事業中止 少女のオンラインプログラムのみ実施
	ヘレン・ストローセミナー2020 中止

事業名	リーダーへの支援
実績	オンライン指導者研修 4回 <ul style="list-style-type: none"> ・Free Being Me 大好きなわたし 期日：9月22日（火・祝） 参加者数：107人 ・「アドボカシー活動を始めるためのガイドブック」理解 期日：10月3日（土） 参加者数：213人 ・自分ごとで考えるジェンダー教育 期日：12月12日（土） 参加者数：167人 ・「ワールドシンキングデイ 2021 活動パック」理解 期日：12月27日（日） 参加者数：450人

事業名	リーダー養成講習・指導者研修
期日	年間
実績	・リーダー養成講習 196回（42都道府県連盟で開催） ・指導者研修 269回（287単位）（42都道府県連盟、日本連盟で開催）

事業名	リーダー養成講習・指導者研修 指導者派遣
実績	派遣なし

事業名	トレーナーへの支援
実績	ホームページ「トレーナー向け情報」随時更新 トレーナーメール 6回配信

委員会名	成人トレーニング特別委員会
実績	2回開催

委員会名	指導者養成について検討する会
実績	1回開催

組織と運営

事業名	連盟長会議
実績	期日：11月15日（日）（オンライン） 〔プレ開会式11月7日（土）、交流会11月14日（土）〕 参加者数：都道府県連盟理事221人、 日本連盟理事・監事11人（計232人）

事業名	新任連盟長研修
実績	期日：6月21日（日）（オンライン） 参加者数：8人、日本連盟理事4人

事業名	都道府県連盟への支援
実績	・首都圏4都県連盟への支援とミーティングをおこない、新型コロナウイルスの影響下における入会者増に向けた取り組みについて情報共有および促進をおこなった

	<p>7月1日（水）（オンライン） 2021年1月26日（火）（オンライン）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織拡充のための理事等派遣 <p>神奈川県連盟 オンライン：福井県連盟、奈良県連盟、福岡県連盟</p>
--	---

委員会名	組織・運営アドバイザーグループ
実績	<p>2回開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新任連盟長研修および連盟長会議の企画に一部協力

会議名	顧問会
期日	中止

会議名	評議員会
実績	<p>期日：12月12日（土）（オンライン）</p> <p>参加者数：評議員8人、日本連盟理事10人、日本連盟監事1人</p>

会議名	理事会・理事連絡会
実績	理事会 5回／理事連絡会 6回（オンライン）

会議名	理事研修
実績	9月5日（土）・9月6日（日）（オンライン）

会議名	監査
実績	5月2日（土）（オンライン）

会議名	第92回定時総会
実績	<p>期日：5月23日（土）</p> <p>会場：ガールスカウト会館</p>

会議名	2020年12月12日臨時総会
実績	<p>期日：12月12日（土）</p> <p>会場：ガールスカウト会館</p>

事業名	第 37 回世界会議 代表派遣
実績	2021 年に延期

事業名	ガールガイド・ガールスカウト世界連盟オンライン総会出席
実績	期日：12 月 19 日（土）（オンライン） 参加人数：2 人

会議名	ガールスカウト推進議員連盟総会
実績	実施なし

事業名	地域支援事業
実績	実施なし

委員会名	戦略検討特別委員会
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・「戦略計画 2021-2023」策定に向けた検討 ・会員の意見を聞く活動の実施 <p>「Voices to GSJ～一緒にガールスカウトの未来をつくろう」の実施 提言数 63 提言 情報会（オンライン）</p> <p>第 1 回 7 月 19 日（日） 参加者 100 人程度 「ガールスカウトの現状、プロジェクトの趣旨について」 和田照子会長</p> <p>第 2 回 7 月 26 日（日） 参加者 150 人程度 「ガールスカウトとジェンダー平等」 河合千尋元副会長</p> <p>第 3 回 8 月 2 日（日） 参加者 130 人程度 「ウイズコロナ、アフターコロナはどんな社会が 予想されるか」 山崎大祐氏 株式会社マザーハウス代表取締役副社長</p> <p>第 4 回 8 月 8 日（土） 参加者 200 人程度 「ガールスカウトの現状、プロジェクトの趣旨について」 和田照子会長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連盟長会議で県連盟理事からビジョン、戦略計画への意見を集めた ・戦略計画 2021-2023 の策定

事業名	『Girl Scouts' News』の発行
実績	vol.7、vol.8 を発行（全会員対象）

事業名	理事・委員会勉強会
実績	期日：2021年2月28日（日）（オンライン） 内容：戦略計画2021-2023の理事、委員間の共通認識を深める 参加者：委員37人、理事11人、事務局10人

事業名	事務局の強化
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での事業継続 ・テレワーク導入のための設備整備 ・事務局内LAN設備更新

会員

事業名	おやこでチャレンジ（秋入会促進事業）
	春の体験集会（春入会促進事業）
実績	230カ団が会員数を前年度末より増加

事業名	ガールスカウトカフェ
実績	<p>年長部門の会員継続を目指したガールスカウトカフェの開催（オンライン）</p> <p><ガールスカウトカフェ Vol.1> 期日：10月10日（土） 参加人数：シニア・レンジャー28人、理事2人 スピーカー：ユース年代9人</p> <p><ガールスカウトカフェ Vol.2> 期日：2021年1月24日（日） 参加人数：シニア・レンジャー32人、理事2人 スピーカー：ユース年代6人</p> <p><ガールスカウトカフェ Vol.3 ～インターナショナル編～> 期日：2021年2月21日（日） 参加人数：62人 運営：インターナショナルキャンプ実行委員会5人 スピーカー：海外のガールスカウト3人 目的：100周年キャンプへのモチベーションアップ</p>

事業名	ガールスカウトの日の促進
実績	医療従事者をはじめ社会を支える人々への感謝の気持ちを社会に発信する活動「ありがとうの輪を広げよう」を全国で展開

事業名	会員継続の支援
実績	小学生6年生およびその保護者、中学3年生、高校2年生年代への継続呼びかけチラシ、転居保護者向けチラシの作成、配布 など

事業名	会員データベースの活用
実績	会員数増加取り組みのためのデータや県連盟のリクエストによるデータを提供

事業名	会員増のためのデータ分析
実績	横浜市立大学におけるデータサイエンティスト養成講座との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・2020年度：コロナ禍の影響で連携は延期 ・2021年度の連携に向けて横浜市立大学の講座担当と準備を開始

委員会名	新しい形のガールスカウト活動のあり方を考える会
実績	3回 成人会員の日本連盟直接登録についての検討を進めた

事業名	日本連盟 表彰	
実績	功労章	桐章6人、菊章16人、梅章44人
	永続奉仕章	70年1人、60年9人、50年35人、40年111人 30年185人、25年213人、20年228人、10年343人
	団永続章	70年3カ団、60年19カ団、50年23カ団、40年27カ団 30年9カ団、25年4カ団、20年5カ団、10年1カ団
	連盟永続章	50年2県連盟、25年1県連盟

事業名	施設団への支援
実績	会費の助成（半額） 4カ団 37人

社会との関係

事業名	社会への発信のための全国活動
実績	<p><ガールスカウトの日> 期日：5月22日（金）前後の土曜日・日曜日に全国で実施 参加者：一般子ども143人、一般成人1,005人 合計1,148人 ・特設ウェブサイトの開設 （「#stayhome」「#ガールスカウトの日」「#ありがとうの輪」をつけて各地の活動を集約するサイト） 期間：4月22日（水）～5月25日（月） SNSによる有効投稿数 146件</p> <p><ガールスカウト夏チャレ> 期間：7月20日（月）～9月30日（水） ・特設ウェブサイトの開設 （「#ガールスカウト夏チャレ」をつけてチャレンジしているガールスカウトの姿を集約するサイト） 投稿数：49件</p> <p><国際ガールズ・デー> 期日：10月11日（日） ・Instagramにてジェンダー平等実現100のコトを発信開始 ・「今伝えたいユースの声」YouTube配信</p> <p><女性に対する暴力をなくす運動> 期間：11月12日（木）～11月25日（水） ・パープルライトアップ施設のSNSへの掲載</p> <p><ワールドシンキングデー> 期日：2021年2月22日（月） ・特設ウェブサイトの開設 （世界とつながるガールスカウトの姿を集約するサイト） 期間：2021年2月10日（水）～3月22日（月） SNS掲載数28件 世界から届いたワールドシンキングデーカード4件掲載</p>

事業名	KIZUNA Day
実績	2021年3月11日（木）全国各地で実施

事業名	ガールスカウトのPR
実績	<p><SNS 広告></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「春の体験集会」に向けた100周年アピール Instagram 動画広告 広告期間：3月18日（水）～4月17日（金） 対象：子育て等特定のキーワードに興味を持つ方、および、100周年 サイト訪問者20～45歳の男女 目的:100周年サイトへのリンクボタンを設置し、100周年サイトのアクセス増加を図る。 広告表示回数：512,694 再生回数：55,812 <p><プレスリリース></p> <p>年間配信数：12件 （PR TIMES）</p>

事業名	広報資料の作成
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシ増刷なし、年間配布数部10,100部 ・小冊子10,000部増刷、年間配布数3,870部 ・アクティビティレポート2019 29,500部 ・2020年カレンダー 900部（広報分）

事業名	ホームページ等の運営
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・日本連盟公式ホームページの運営 アクセス数：647,199（昨年度比120.6%） 訪問者数：317,783人（昨年度比134.5%） 新規訪問者数 205,281（昨年度比146.8%） ・日本連盟公式ブログの運営 サイトビュー数：33,437PV 公開記事数：12記事

事業名	SNSの活用
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・Facebook ページ ガールスカウト日本連盟ページ 総リーチ数（デイリーリーチの合計）1,007,145 ガールスカウト Stop the Violence キャンペーン ページ 総リーチ数 46,314 Girl Scouts of Japan KIZUNA Line ページ 総リーチ数 6,204 ・Twitter フォロワー数 2,163（昨年度比199増） 総インプレッション数 4,643,964 ・YouTube 総視聴回数 157,726（昨年度比186.1%） チャンネル登録数 1,275人（昨年度比379増）

	<ul style="list-style-type: none"> ・LINE 有効友だち数 3,363 (昨年度比 511 増) ・Instagram フォロワー数 2,229 人 (昨年度比 515 増)
--	---

事業名	社会との連携
実績	<p><文部科学省委託事業の実施> コロナ禍で子どもへの体験活動提供を目的とした同省の事業を受託し、全国で開催した。 33 都道府県連盟 175 事業 (コロナ禍、荒天などにより 31 事業中止) 参加者 4,084 人 (子ども 3,373 人、大人 711 人) スタッフ・指導者 1,503 人</p> <p><他団体事業 (国際交流事業) への推薦> 内閣府青年国際交流への推薦 推薦者 2 人 世界的な新型コロナウイルス感染症蔓延のため、すべての事業を中止 推薦者は、2021 年度の内閣府での選考候補者となる</p>

事業名	他団体との連携
実績	<p><デートDV防止全国ネットワークとの連携> デートDVスプリングフォーラムへの協力</p> <p><ダヴとの連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユニリーバ・ジャパン高校生インターンシップ協力 期日：8月13日(木) (オンライン) 内容：Free Being Me 大好きなわたし実施 参加人数：180人 対象：中高生 ・ダヴデイ協力 期日：10月23日(金) (オンライン) 内容：Free Being Me 大好きなわたし実施 参加人数：20人 対象：ユニリーバ・ジャパン社員および内定者 <p><国立青少年教育振興機構> 「秋のキッズフェスタ」体験ブース出展協力 期日：10月24日(土) 会場：国立オリンピック記念青少年総合センター ブース体験者：233人 スタッフ人数：6人</p> <p><マイクロテクノロジーとの協働事業実施 (STEM 関連) > Girls Going Tech 特別イベント わたし×生活×テクノロジー ～わたしの将来に必要な知識を学ぼう～ 期日：2021年3月20日(土)・21日(日) (オンライン) 参加人数：シニア (中学1・2年生) 52人、理事1人 協力：広島大学 講師：則末優衣氏 (マイクロンメモリジャパン合同会社) 川田和男准教授、鈴木裕之准教授 (広島大学) サポート：広島大学学生 19人</p>

	<p><ケアインターナショナル・ジャパンとの協働事業> Walk in Her Shoes ジュニアアンバサダー 期間：2021年3月8日（月）～5月31日（月） 参加人数：レンジャー41人</p> <p><防災科学技術研究所（防災）> KIZUNA Day 特別イベント 親子防災科学教室 期日：2021年3月14日（日）（オンライン） 参加人数：約600人</p> <p><教育協力NGOネットワーク（JNNE）> SDG4教育キャンペーン 期間：4月1日（水）～5月31日（日） ユースロビイングへの参加 レンジャー8人</p> <p><NTT東日本、日本公衆電話協会（防災）> 教材申込4件（東日本3件、西日本1件）</p> <p><（一社）日本損害保険協会（防災）> 小学生のぼうさい探検隊マップコンクール 入賞：審査員特別賞1カ団、デジタルチャレンジ賞1カ団、佳作4カ団</p> <p><環境省×東京都交通局（環境）> クールチョイス&スマートムーブへの協力 TVアニメ『トロピカル〜ジュ！プリキュア』タイアップポスター掲出 報告数：30件</p> <p><厚生労働省> 「#広がれありがとうの輪」プロジェクト賛同 ハッシュタグキャンペーン実施</p> <p><朝日新聞社> 教材『地球教室』基礎編／応用・研究編に記事掲載</p> <p><日本女性財団> ・ウーマンヘルスアクション オンラインイベント 期日：2021年3月6日（土） 内容：わたしたちのヘルシー～心とからだの話をはじめよう～ レンジャースカウト2人登壇 ・女性の健康と性に関する調査の実施</p>
調査	<ul style="list-style-type: none"> ・女子高校生調査2020 対象：女子高校生 回答者数：700人 ・少女たちと接する成人（会員・保護者）を対象としたアンケート 回答数 保護者533人、成人会員818人 ・女性の健康と性に関する調査 対象：女子高校生 回答者数：304人

財政

事業名	ガールスカウト会館の管理運営
実績	ガールスカウト会館1階部分の賃貸事業の実施

事業名	戸隠ガールスカウトセンターの管理運営
実績	春期利用：4月25日（土）～7月10日（金） 利用なし
	夏期利用：7月23日（木・祝）～7月26日（日） 8月1日（土）～8月24日（月） 宿泊利用0人 日帰り利用36人 利用グループ2グループ
	秋期利用：9月1日（火）～11月9日（月） 宿泊利用27人 日帰り利用37人 利用グループ7グループ

事業名	助成金の獲得
実績	26頁「2020年度民間助成金」参照

事業名	寄付金の拡大
実績	ネット募金 67,466円 アフィリエイト 463,381円

事業名	戸隠を想う日（6月8日）
実績	戸隠募金 1,147,301円

事業名	グッズ販売事業
-----	---------

事業名	賛助会員トレフォイルの集い
実績	期日：11月29日（日）（オンライン） 内容：ピンセレモニー、日本連盟事業報告、 賛助会員トレフォイル会計報告、交流会 参加者数：26人

委員会名	財政検討特別委員会
実績	・第3次財政計画検討期間の変更

委員会名	ファンドレイザーグループ
実績	3回開催 賛助会員、賛助会員トレフォイル、マンスリー募金の寄付推進

政府委託事業・共催事業

省庁	事業名
文部科学省委託	子供の心身の健全な発達のための子供の自然体験活動推進事業 事業名：チャレンジチェンジガールスカウト
内閣府共催	国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業 事業名：中学生や高校生年代のためのオンラインプログラム 「me and them」制作

2020 年度民間助成金

助成団体	事業名
一般社団法人霞会館	・国際理解推進のための施設整備及び資料整備
独立行政法人国立青少年教育振興機構（子どもゆめ基金）	・国際ガールズメッセイベント ・VAV 指導者研修会
株式会社日能研	・コミュニティアクションチャレンジ 100 アワード協賛金
Micron Technology Foundation, Inc.	・Girls Going Tech 特別イベント わたし×生活×テクノロジー ～わたしの将来に必要な知識を学ぼう～
ガールガイド・ガールスカウト世界連盟	・FBM/ABC プログラム
公益財団法人東京しごと財団 （事業継続緊急対策（テレワーク）助成金）	・テレワーク環境の整備

2020 年度世界連盟への寄付（2021 年 3 月末時点）

寄付金名	金額
国際友愛基金	1,824,687 円
サンガム指定寄付金	428,697 円
相互援助計画のための寄付 （AP 地域の加盟連盟の分担金支援として）	1,267,072 円

2020 年度他団体役員等就任状況

団体名	役職名
内閣府・男女共同推進連携会議	議員
文部科学省・独立行政法人青少年教育振興機構の評価等に関する有識者会議	委員
独立行政法人環境再生保全機構	地球環境基金運営委員会委員
独立行政法人国立青少年教育振興機構	ミクロネシア諸島自然体験交流事業総合評価委員会委員
独立行政法人国立青少年教育振興機構 体験の風をおこそう運動	推進委員会委員
	企画推進チーム員
公益社団法人国土緑化推進機構	緑の募金運営協議会委員
	緑の少年団表彰審査委員会委員
公益社団法人日本キャンプ協会	理事
公益財団法人日本ユニセフ協会	顧問
一般財団法人日本ユースホステル協会	評議員
社会福祉法人中央共同募金会	評議員
特定非営利活動法人自然体験活動協議会	副代表理事
特定非営利活動法人開発教育協会	理事
文部科学省委託事業「青少年の体験活動の推進 [体験活動推進プロジェクト]」	自己肯定感向上プロジェクト推進会議委員